

第5回 第10期多治見市財政問題市民懇話会会議録（要旨）

日時 令和6年6月18日(火) 13:30～

場所 多治見市役所 本庁舎4階会議室

<出席委員> 森岡会長、前川副会長、伊藤委員、佐藤委員

<事務局> 柚木崎総務部長、小栗財政課長、大前、河野、水野

1 総務部長挨拶

2 議題

(1) 使用料、手数料等の見直しについて

(2) その他

【主な意見等】

(1) 使用料・手数料等の見直しについて

事務局	議論の前に、本日欠席の委員より事前に意見をいただいているので報告する。 利用料ごとに適正な理由付けがされており、全体を通して事務局案に賛同いただいている。 スポーツ施設及び文化施設については、改修費等を踏まえた算定料金と実際の利用料金との乖離が気になるところだが、政策的又は他市との競争の観点から、料金を抑えることはやむを得ない。また、冷暖房及び照明の料金について、重油等に比べ上昇率の緩やかな消費者物価指数を使い、エネルギー価格等の高騰に対応する利用料の値上げを行うことは、市民も理解しやすく、財政健全化の観点からも進めたほうが良い。今後もエネルギー価格等の高騰や円安基調が続くようであれば、冷暖房及び照明の料金を毎年見直すことも検討してみてはどうかとの提案もあった。 以上をふまえ、議論をお願いしたい。
委員	料金の値上げについては理解できるが、一方で値上げをせず「据置き」としたもののについての根拠は何か。
事務局	施設にかかるコストを再計算したところ、現在の料金よりも低くなるものや、他市や民間が管理する同様の施設の料金と比較した際に、引上げが困難なものを据置きとしている。
委員	エネルギー価格等の高騰により値上げする方針で検討するのは仕方ないが、施設ごとの利用状況を分析したうえで検討することも大切ではないか。
委員	私も稼働率の状況が気になった。稼働率の低い施設については、料金を下げて稼働率を上げることを考えてもよいと感じた。また、先ほどの事務局の説明で、使用料を下げず据置きにしている説明を聞き、市民感情として複雑な気持ちであった。
事務局	稼働率は施設ごとに異なる状況で、公共施設という性質上、需給バランスに基づいた使用料の算出は困難である。施設にかかるコストを計算するときには、年間で利用可能な全ての日数及び時間帯を利用すると仮定しているため、稼働率が下がることはコストが回収できないことを意味している。

委員	稼働率とは直接関係ないが、資料に示された市場性と選択制の関係を示した図は、公費と受益者負担の観点から適正な費用負担を考えるうえで、有効性があるのではないかと考える。施設ごとの性質を考慮したうえで、他市や民間の状況と比較しつつ、数値的な根拠を持って価格の改定を行っているという印象を持った
委員	資料の市外料金に「土岐市・瑞浪市は市内扱い」とあるが、この2市に限定する根拠はあるか。また、土岐市・瑞浪市でも多治見市民を優遇してくれる料金設定なのか。
事務局	土岐市・瑞浪市は市外料金を設定しておらず、多治見市民も両市民と同じ料金で施設を利用できる。東濃西部3市は昔から地域的なつながりが強いので、他の市町村とは別の扱いとしている。
委員	土岐市や瑞浪市などでも、多治見市と同様に使用料・手数料等の見直しを行っているか。
事務局	詳細までは把握していないが、各市でも同様の見直しを行っていると聞く。
委員	施設利用率向上のために、貸出しを行う施設の具体的な利用イメージをホームページで発信するなど、施設の利用率が上がるような工夫も求めたい。
事務局	現在多くの施設を指定管理としているが、指定管理者を選定する基準の中に、管理する施設をいかに有効に活用してもらえるかも含まれており、最も適した管理者を選ぶ仕組みとなっている。併せて、毎年の評価委員会で施設の活用を含む成果の報告を受けているため、このような機会も使いながら、施設の活用についての提案を行いたい。

(2) その他

事務局	次の開催予定は未定。新たな議題が出てきたら改めて日程調整を行う。
-----	----------------------------------